組立説明書

サンライズフラット

■ このたびは、お買上げ下さいまして誠にありがとうございます。

■ 正しく組立を行っていただくため必ず本書を読みよく理解して下さい。

目次

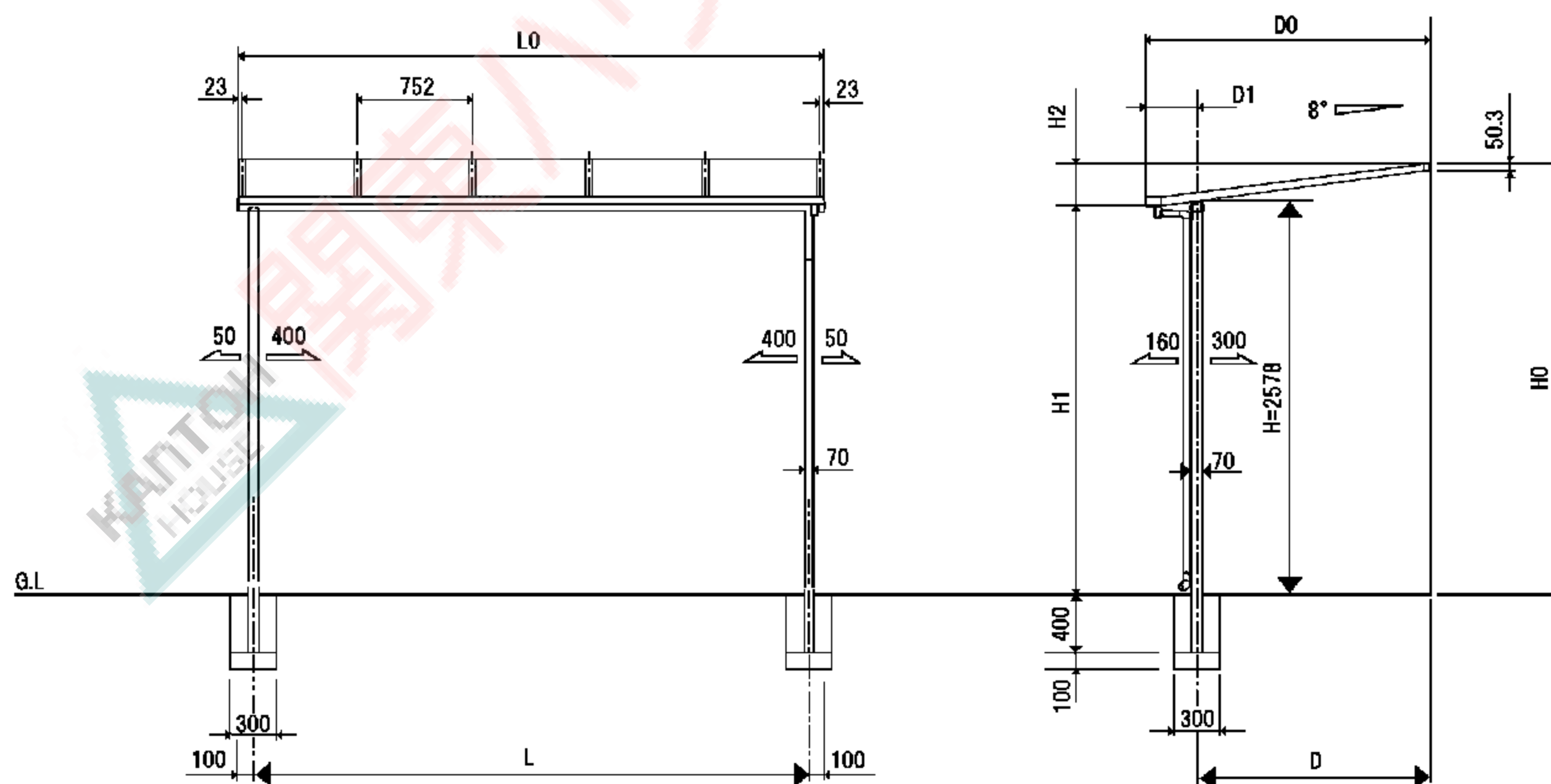
組立前に必要な準備

工具

- スケール、水平器
- スコップ、つるはし
- カッターナイフ
- 充電ドライバー、⊕ ドライバー
- 電気ドリル、キリ
- ボックスレンチ、スパナ
- 切断機、弓ノコ
- プラスチックハンマー、木づち
- コーキングガン、ヘラ

資材

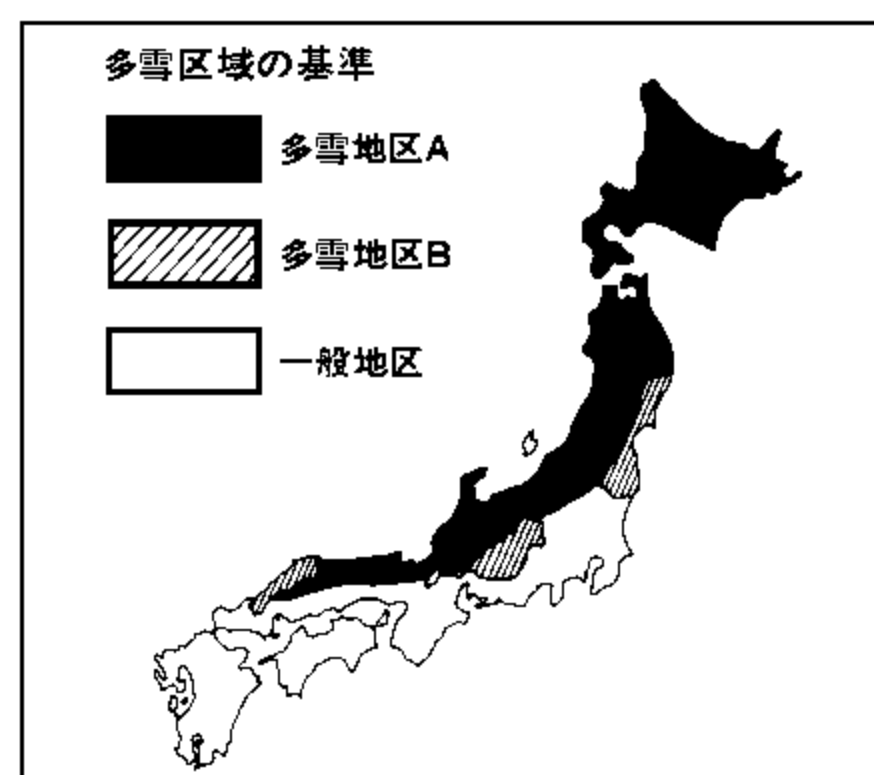
- セメント
- 砂
- グリ石

基本寸法

	L	L0
1.0K	2102	2302
1.5K	2854	3054
2.0K	3606	3806
2.5K	4358	4558

	D	D0	D1	H0	H1	H2
09	590	913.9	323.9	2703.9	2530.1	173.8
12	890	1213.9	323.9	2746.1	2530.1	216
15	1190	1518.9	328.9	2788.2	2529.3	258.9
18	1490	1818.9	328.9	2830.4	2529.3	301.1
21	1790	2119	329	2872.5	2528.7	343.3

※ロング柱使用の場合はH寸法プラス625mmとします。

組立上の注意事項

1 本製品は一般地域用です。
□の部分で使用下さい。

2 本製品の組立は組立説明書に従い、みだりに改造、変更をしないで下さい。

3 落雪の恐れのある場所や条件の悪い場所(風の通り路等)への設置はしないで下さい。
落雪の恐れのある場所へ取付ける場合は屋根の雪止工事を必ず行って下さい。

4 本製品は木造住宅の二階部以下に取付ける設計です。
3階以上に取付けないで下さい。

5 本体と躯体を連結するコーチスクリューは指定本数を使用し、柱等に確実に固定
して下さい。

6 基礎は指定の大きさで必ずアンカー棒を取付けコンクリートで 固定して下さい。
寒冷地では柱の凍結破損防止の為、基礎に近い場所にφ5水抜穴を開けて下さい。

7 躯体の取付面および穴開け加工をする場合は必ずコーキングで防水処理を施して下さい。

8 コンクリートに使用する砂に海砂は使用しないで下さい。
海砂には塩分が多く含まれておりアルミを腐食させる原因となりますので使用する場合は
真水でよく水洗いした後、使用下さい。

9 コンクリート(又はモルタル)には急結剤を使用しないで下さい。

10 ボルト、ビス類は確実に締め付け、工事終了後に確認を行って下さい。

11 屋根材の保護フィルムは必ず組立時にはがしてください。
組立後、期間をあけてはがされますと屋根材からはがれなくなります。

12 風の吹く場所では屋根置式バルコニーとの連結はしないで下さい。

13 組立時に付いたモルタル、油等の汚れは本体に傷をつけない様に拭き取って下さい。

14 組立終了後、取扱説明書に必要事項を記入し施工主様に必ずお渡し下さい 。

梱包明細

品　　名	1.0KS	1.5KS	2.0KS	2.5KS
中骨	3	4	5	6
中骨取付金具	6	8	10	12
前枠	1	1	1	1
桁	1	1	1	1
垂木掛け	1	1	1	1
垂木掛けキャップR/L	各1	各1	各1	各1
屋根材受け	3	4	5	6
柱取付金具	2	2	2	3
前枠キャップ　R/L	各1	各1	各1	各1
桁キャップ　R/L	各1	各1	各1	各1
共通樋部品(φ42)※1	1	1	1	1
丸樋　φ42　L=3200	—	1	1	1
丸樋　φ42　L=1600	2	—	—	—
樋パッキン　A	1	1	1	1
丸樋連結部品(φ42)※2	1	—	—	—
セットビス　※3	1	1	1	1

品　　名	1.0KW	1.5KW	2.0KW
中骨	3	4	5
中骨取付金具	6	8	10
連棟前枠	1	1	1
連棟桁	1	1	1
連棟垂木掛け	1	1	1
屋根材受け	3	4	5
前枠連結金具	1	1	1
前枠連結カバー	1	1	1
桁連結金具	1	1	1
柱取付金具	1	1	1
共通樋部品(φ42)※1	1	1	1
丸樋連結部品(φ42)※2	1	—	—
丸樋　φ42　L=3200	—	1	1
丸樋　φ42　L=1600	2	—	—
樋パッキン　A	1	1	1
セットビス　※3	1	1	1

品　　名	員数
妻垂木　R/L	各1
妻屋材押え	2
垂木固定金具　※4	2

※4　垂木固定金具は、各垂木に取り付いています。

■ 4-3 中間垂木セット2本入/3本入

品　　名	2本入	3本入
中間垂木	2	3
中間屋根材押え	2	3
垂木固定金具　※4	2	3

■ 4-4S　柱セット/4-4W　連棟柱セット

品　　名	標　準	連　棟
柱(ロング柱)　※5	2(2)	1(1)

■ 補強桁セット

品　　名	員　数
補強桁	1
φ4X13テクスビス	30

■ 屋根材セット

	寸法	3枚入り	4枚入り	5枚入り
09	740X836X2	3	4	5
12	740X1139X2			
15	740X1447X2			
18	740X1750X2			
21	740X2053X2			

※1　共通樋部品(φ42)

品　　名	員　数
アタッチメント	1
ドレンエルボ88°	1
エルボ88°	2
サドル・サドル受け	3
水止めキャップφ30	1
接着剤	1
φ4X19テクスビス	5

※2　丸樋連結部品(φ42)

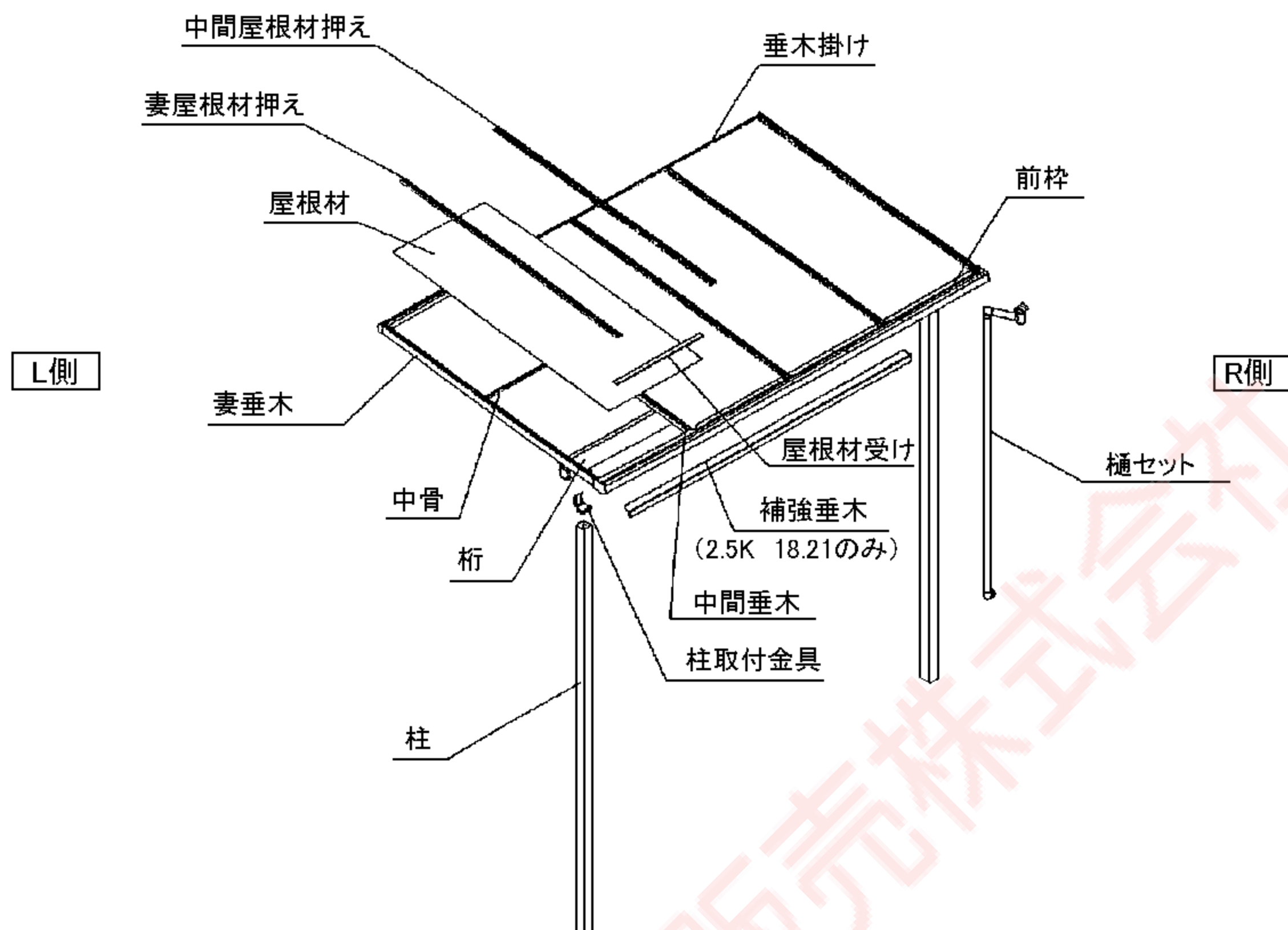
品　　名	員　数
サドル・サドル受け	1
ストレートジョイント	1
φ4X19テクスビス	1

※3　セットビス

品　　　名	1.0KS	1.5KS	2.0KS	2.5KS	1.0KW	1.5KW	2.0KW
φ4X12トラスタッピング1種	16	20	24	28	14	18	22
φ4X10トラスタッピング3種	36	45	54	63	27	36	45
M8X80ボルト　平座金2、バネ座金1、袋ナット1	4	4	4	6	2	2	2
M8X16四角ボルト　平座金1、バネ座金1、袋ナット1	8	9	10	13	5	6	7
φ6X70コーチスクリュー平座金1	4	5	6	7	4	5	6
M5X14十字穴付ボルト　平座金1、バネ座金1	8	10	12	14	6	8	10
φ5X16トラスタッピング1種	4	5	6	7	11	12	13
φ4X10トラスタッピング3種(予備)	5	5	5	5	5	5	5
φ4X13テクスビス	13	16	19	22	11	14	17
φ8X150アンカー棒	2	2	2	3	1	1	1
コーキング(330ml)	1	1	1	1	1	1	1
組立説明書	1	1	1	1	1	1	1
取扱説明書	1	1	1	1			
ラベル(商品名、各小袋)	1	1	1	1	1	1	1

組合わせ表

梱　包　名			1.0KS	1.5KS	2.0KS	2.5KS	
						09～15	18～21
4-1S	間口セット		1	1	1	1	1
4-2	妻垂木セット		1	1	1	1	1
4-3	中間垂木セット	2本入り	1		2	1	1
		3本入り				1	1
共通柱セット			1	1	1	1	1
共通連棟柱セット				1			
補強桁セット							1
屋根材セット		3枚入り	1			2	2
		4枚入り		1			
		5枚入り			1		
合　計　梱　包　数			5	5	6	7	8

各部名称

1.垂木掛けの取り付け

①躯体に墨出しを行い、取付位置を決定し、垂木掛けを取付けて下さい。

垂木掛けには、コーチスクリュー取付穴は端部しか開いていませんので､中間部は穴加工後取付けて下さい。

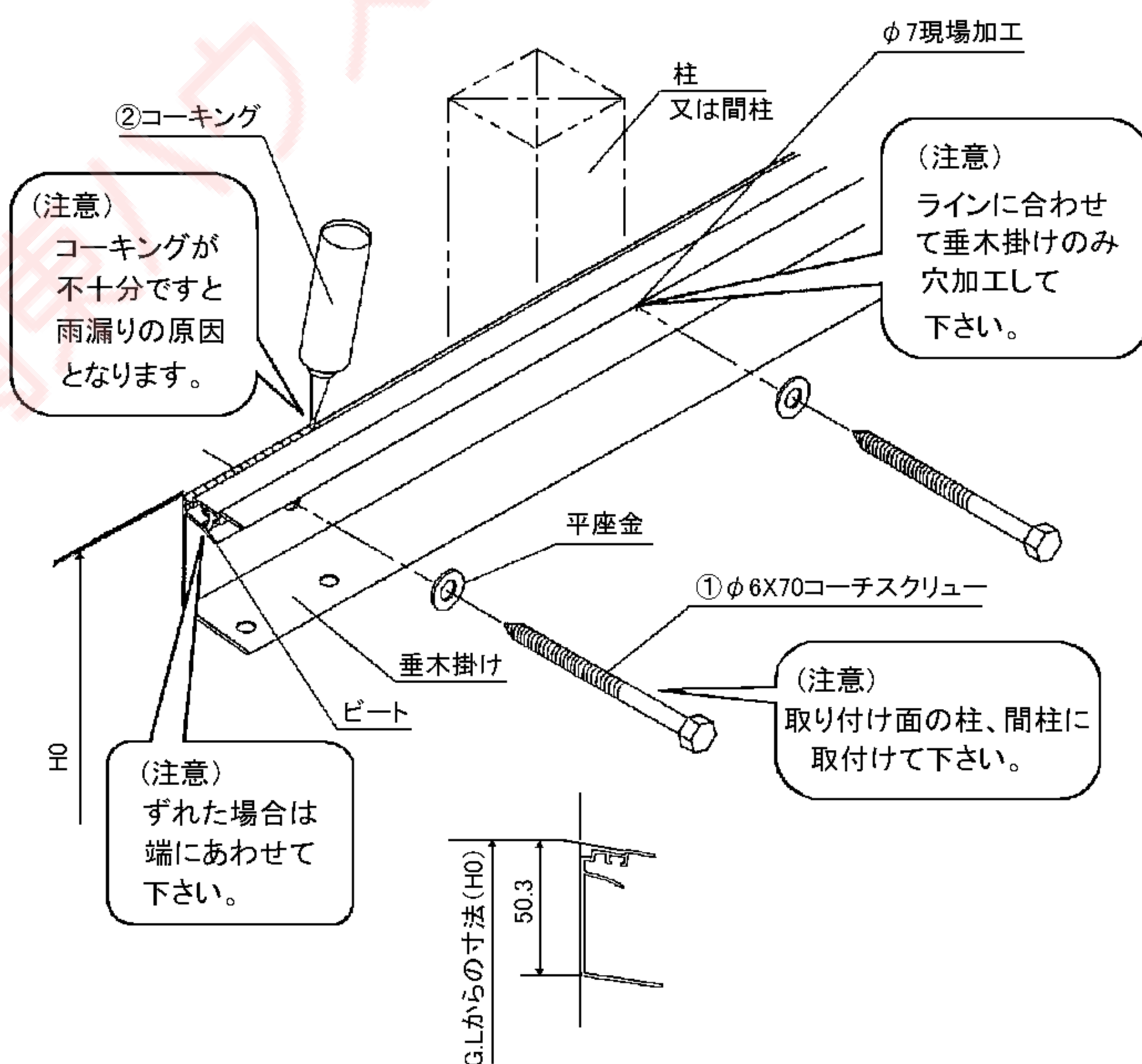
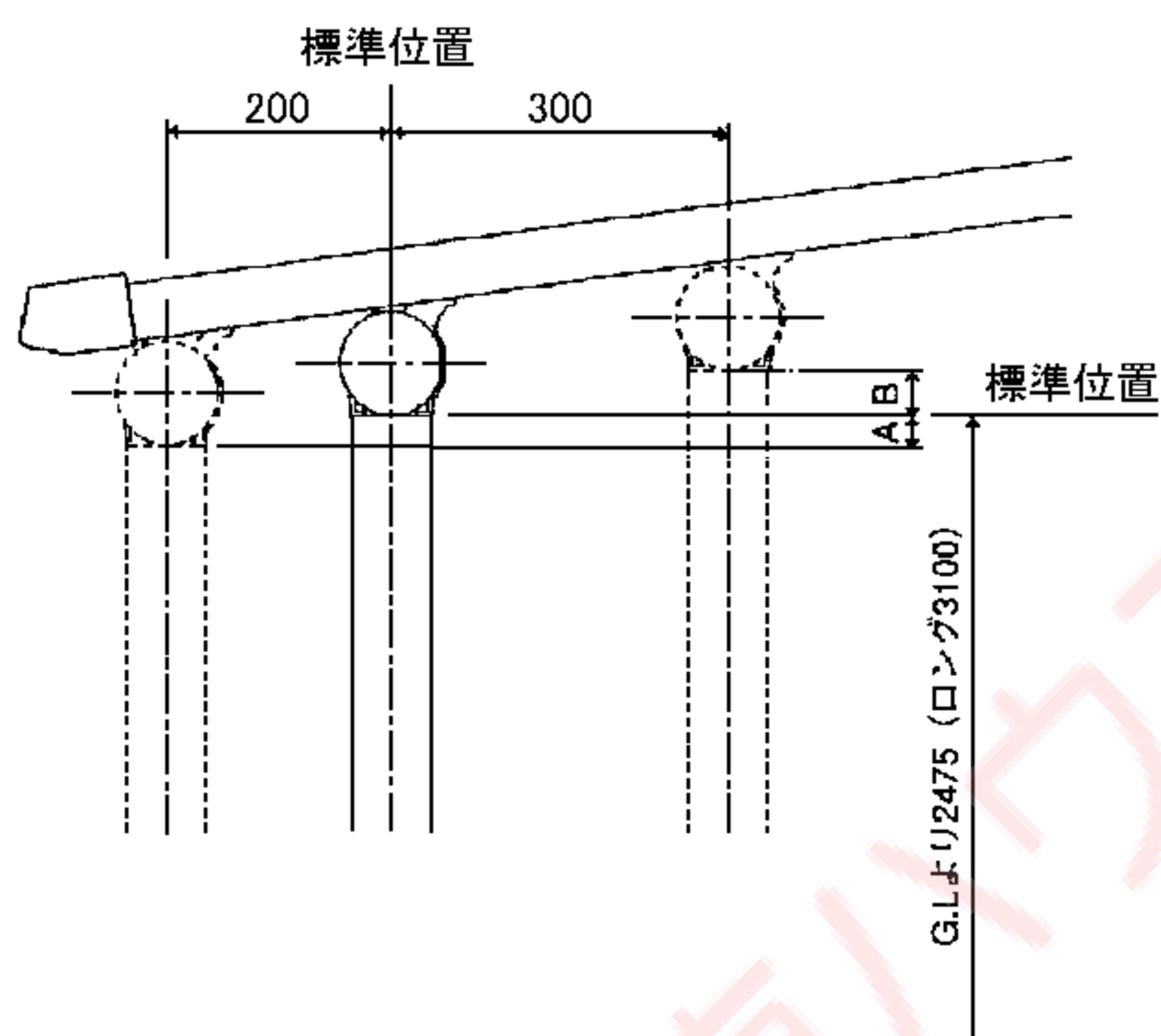
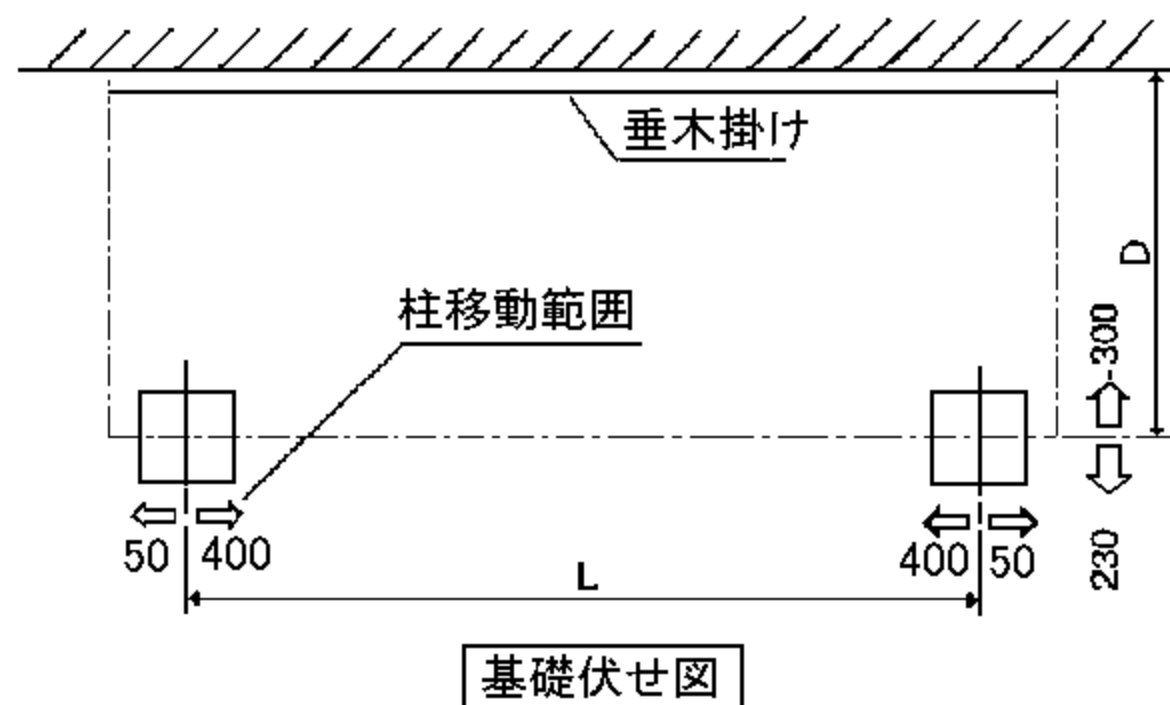
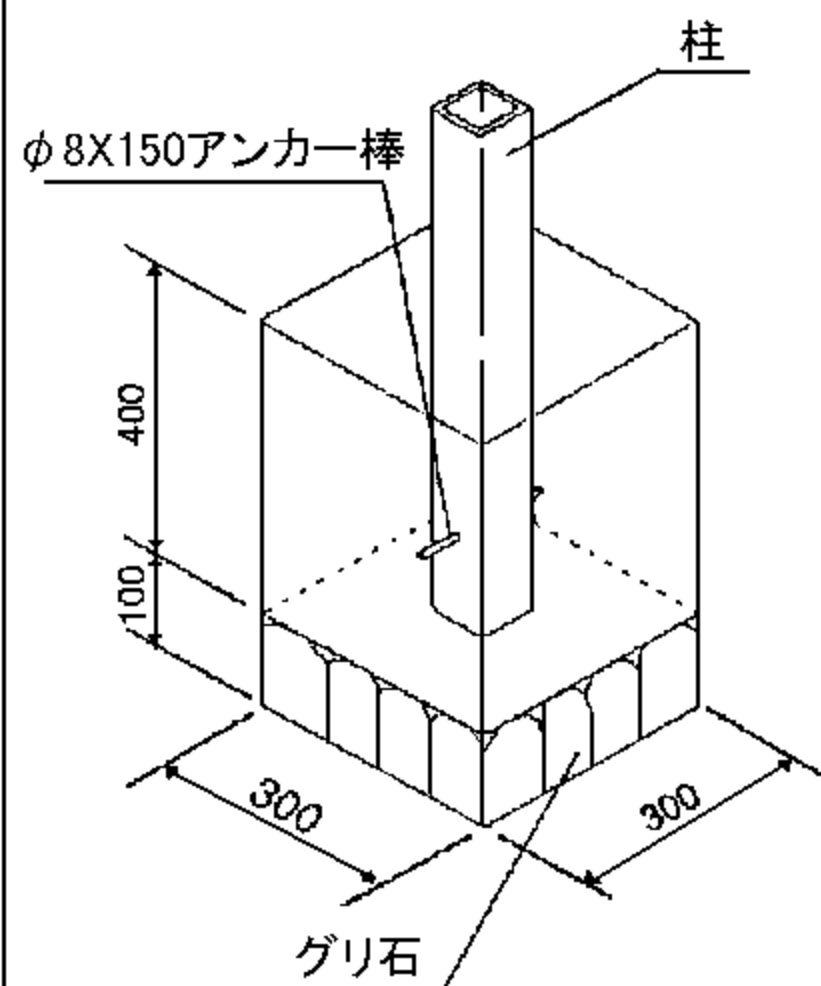
（注意）

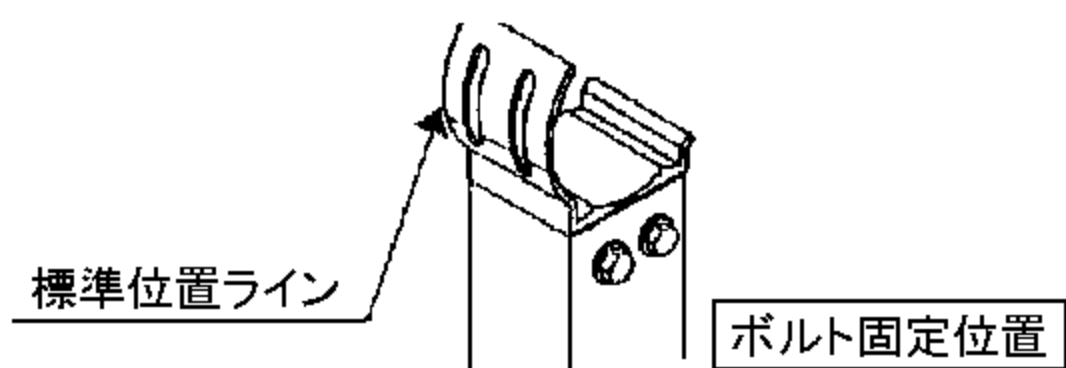
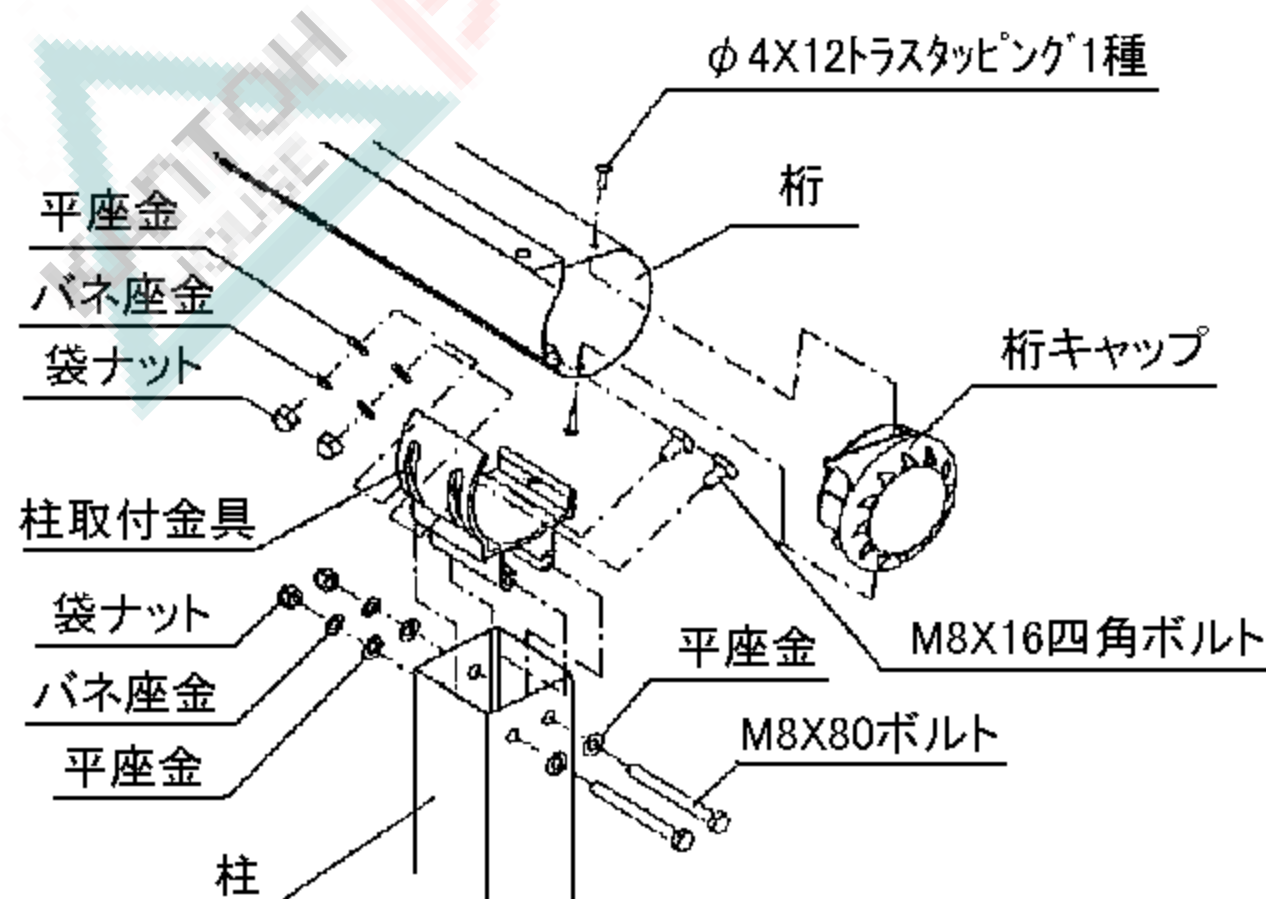
・コーチスクリューは指定本数を必ず使用し、確実に締めつけて下さい。

②九対の接続部分にコーキング処理を施して下さい。

	H0寸法
09	2700
12	2750
15	2790
18	2830
21	2870

2. 柱、桁の取り付け

桁移動寸法

柱移動位置	A	B
前へ　50	7	
100	14	
150	21	
200	28	
後へ　50		7
100		14
150		21
200		28
250		35
300		42

※単位　mm

①垂木掛けより基礎位置を墨出しし、指定寸法の大きさで穴を掘って下さい。

（注意）
- ·地盤が軟弱な場所では指定寸法以上の基礎として下さい。
- ·柱を移動する場合は柱移動範囲を必ず守って下さい。
- ·柱を前後に移動する場合は、左下図、表を参照し、埋込み深さの調整又は柱下部を切断する方法で柱上端の高さ位置を合わせて下さい。

②柱に柱取付金具を取付けて下さい。

（注意）
- ·アンカー棒を必ず取付けて下さい。
- ·コンクリート工事は骨組み完了後に行って下さい。
- ·寒冷地では基礎に近い位置にφ5水抜き穴を加工して下さい。

③桁の溝に両端より2ケづつ、ボルトをスライドしてから、桁キャップを取付けて下さい。

④桁を柱に仮止めし、位置が決定した後本締めして下さい。

（注意）
- ·柱取付金具には、ボルト標準固定位置の印がありますので、曲げ部分に桁移動をしない場合はボルトの芯を合わせて下さい。

3. 垂木、前枠の取付

①妻垂木と中間垂木の溝にM8四角ボルトをスライドして下さい。

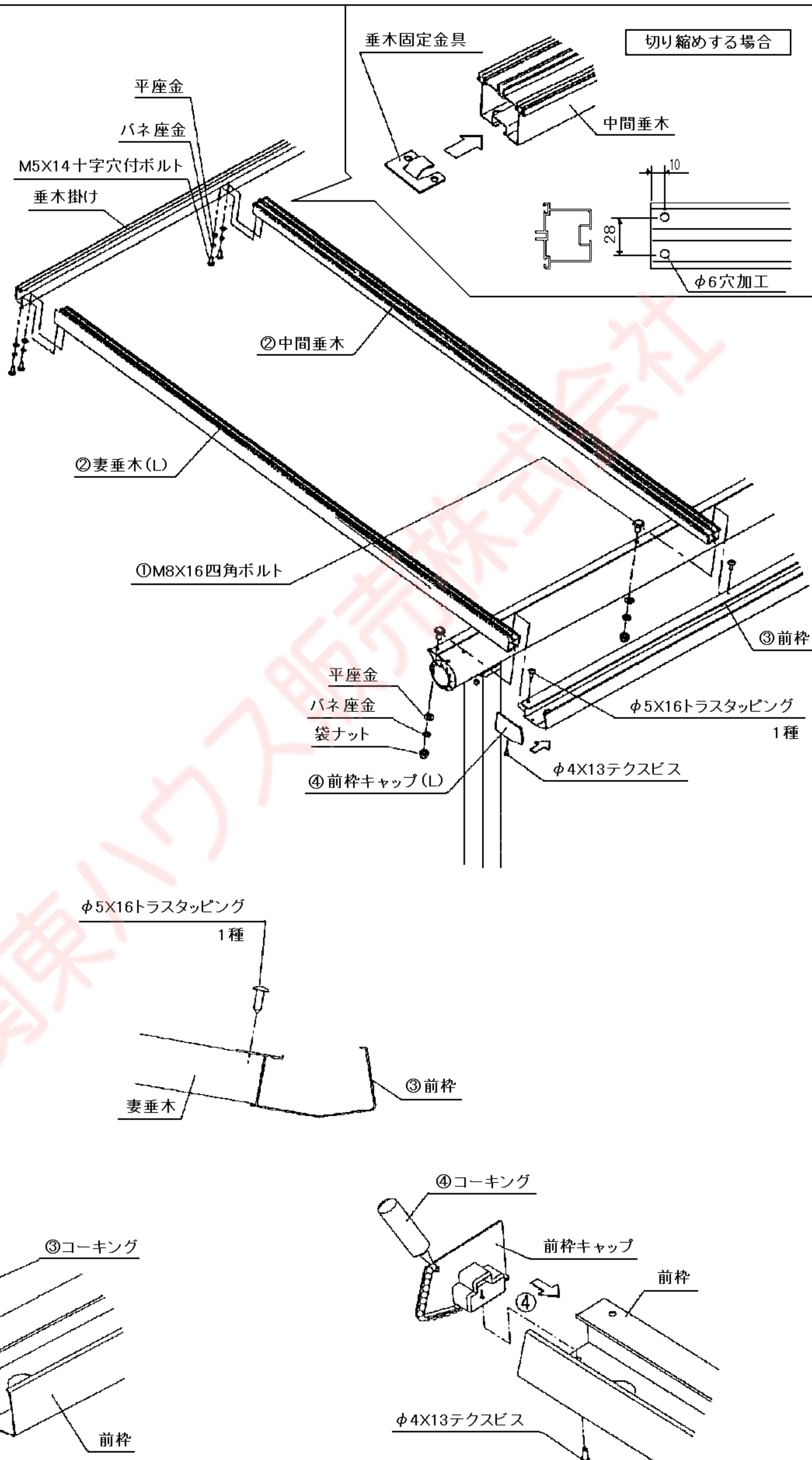
(注意)
- ・ボルトが抜け落ちないように、テープ等で止めて下さい。

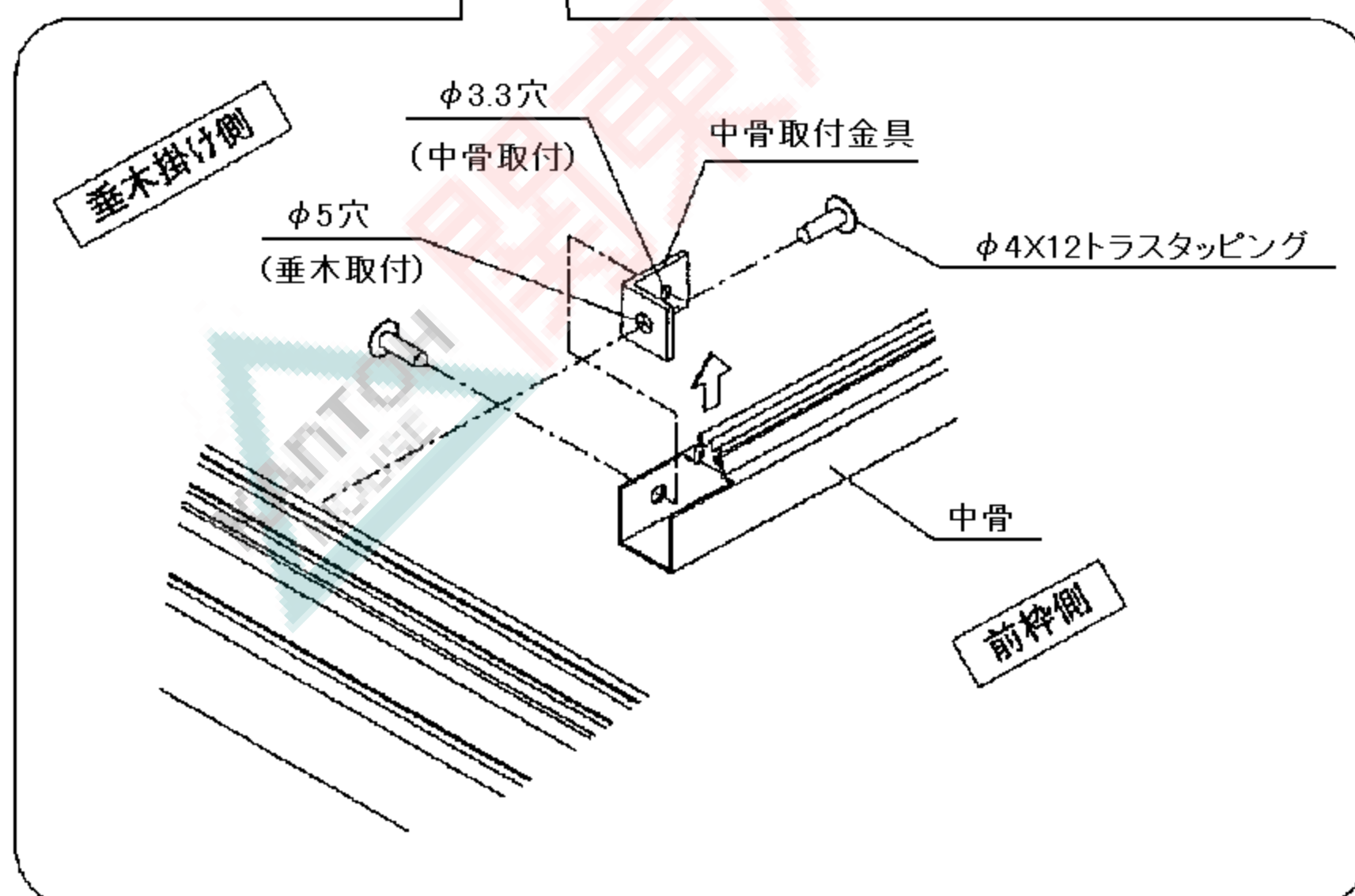
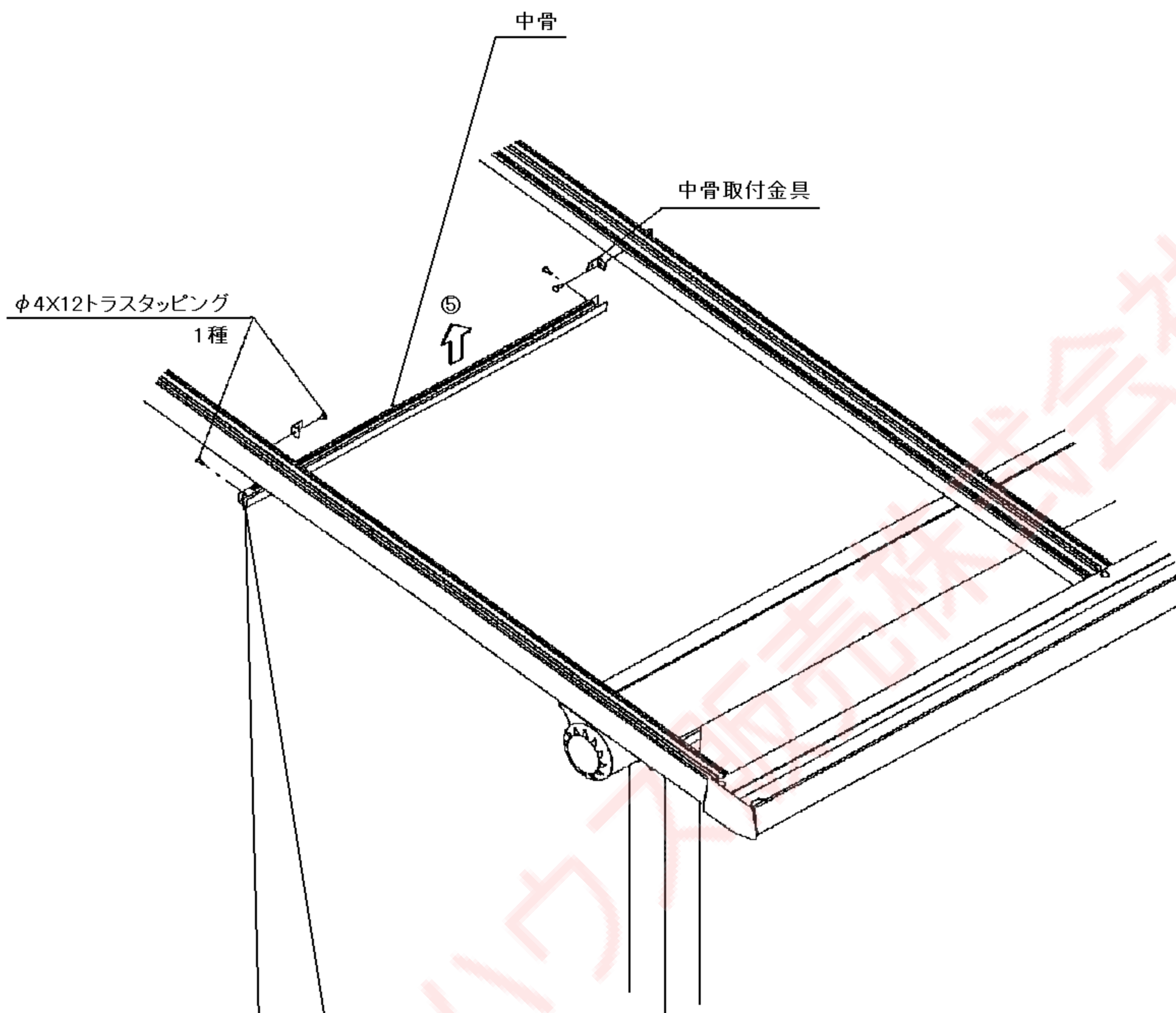
②垂木を垂木掛けと桁に取付けて下さい。

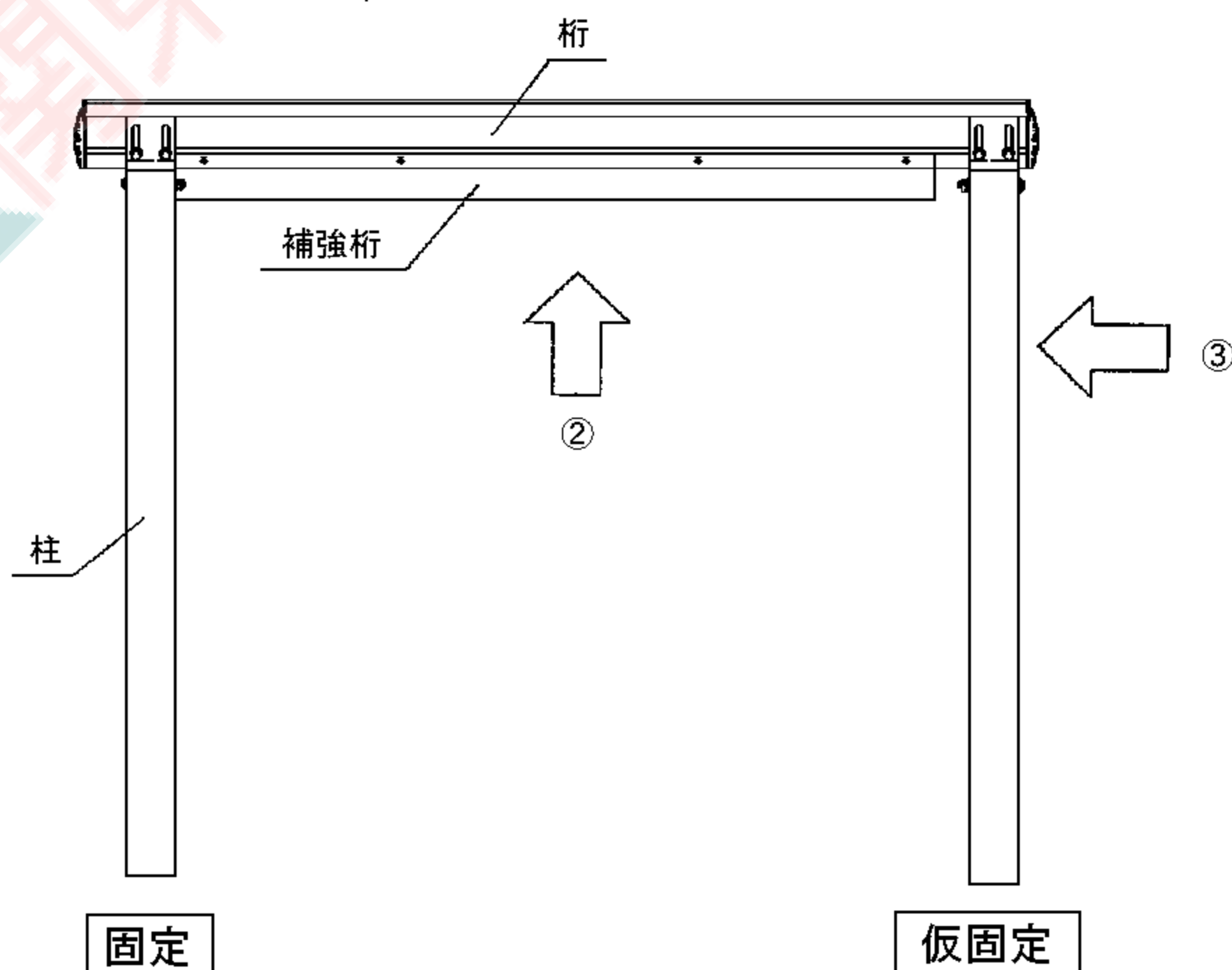
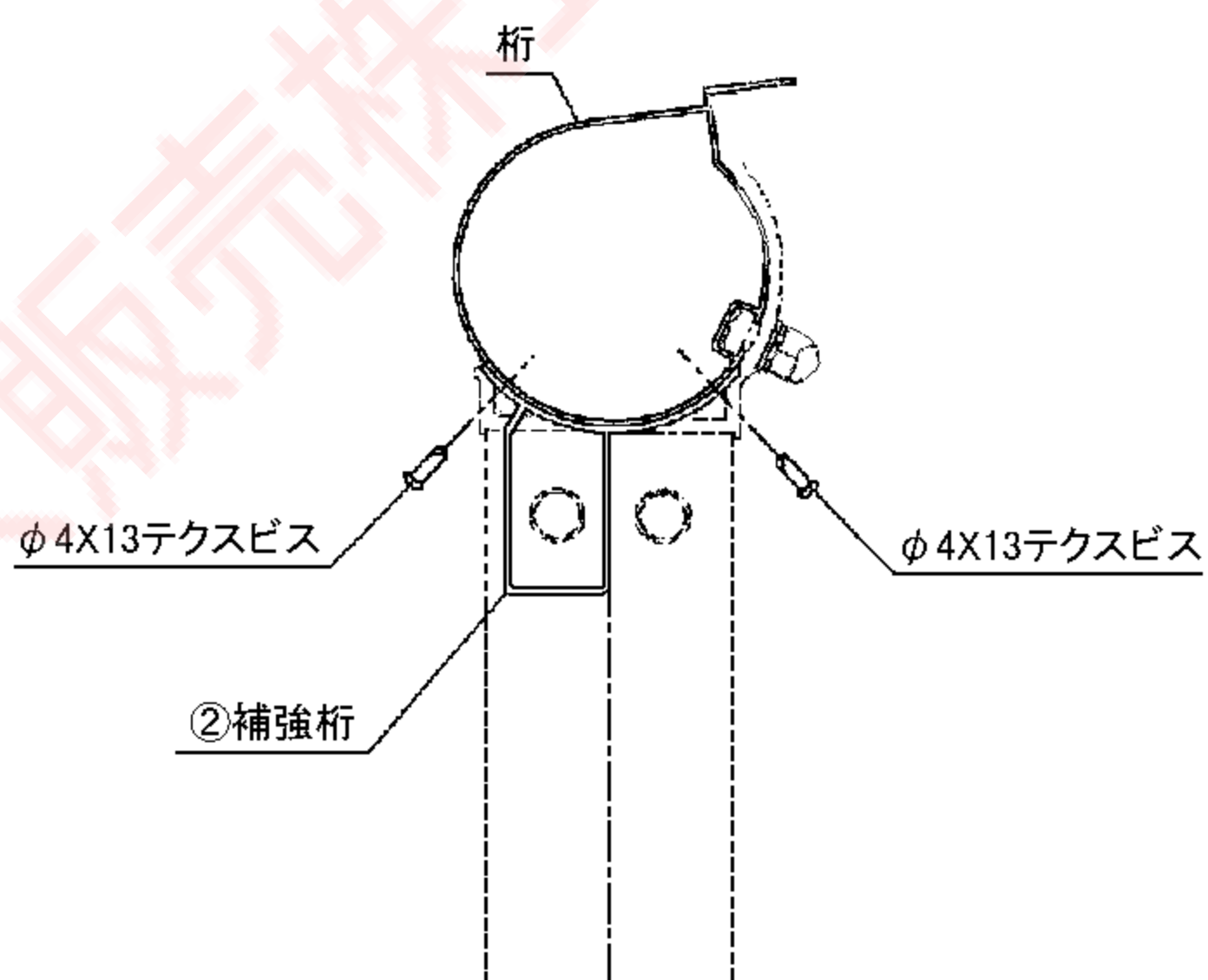
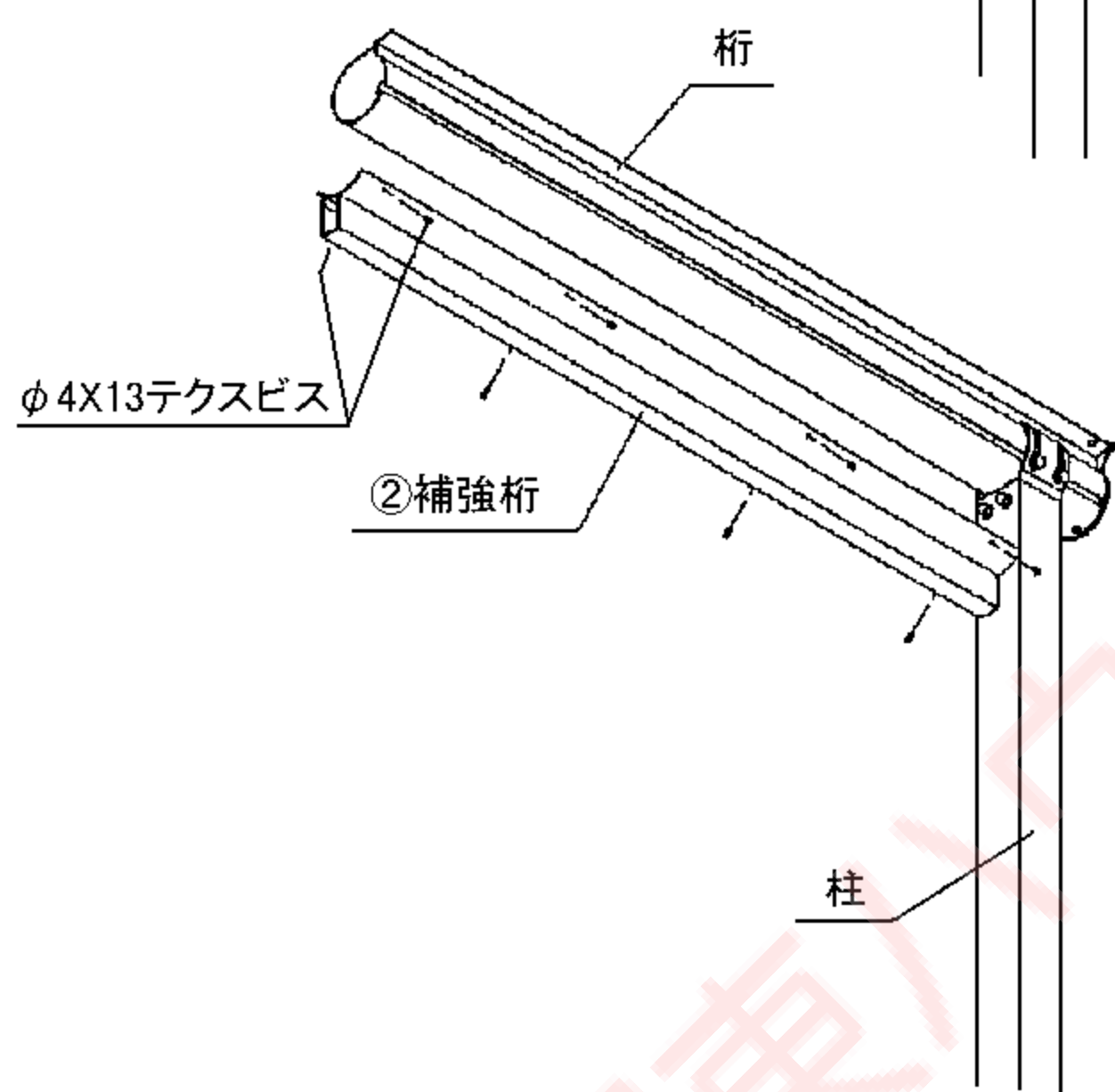
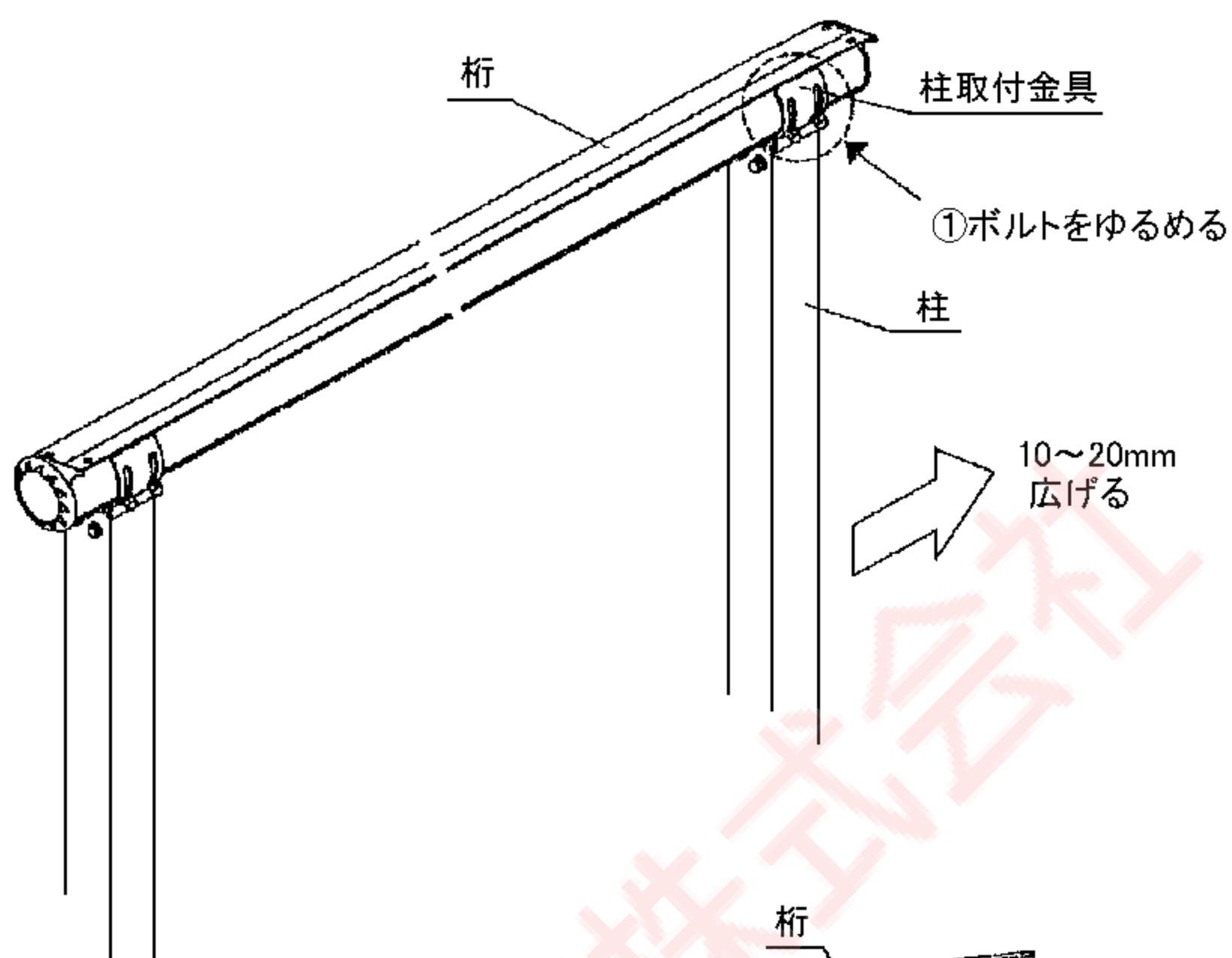
(注意)
- ・桁のボルトは仮止めとし、前枠の取付、桁の位置、屋根材の角度を確認してから本締めをして下さい。
- ・垂木を切り縮める場合は、組み付いている垂木固定金具をはずし、切り縮め穴加工後、もう一度取り付けて下さい。

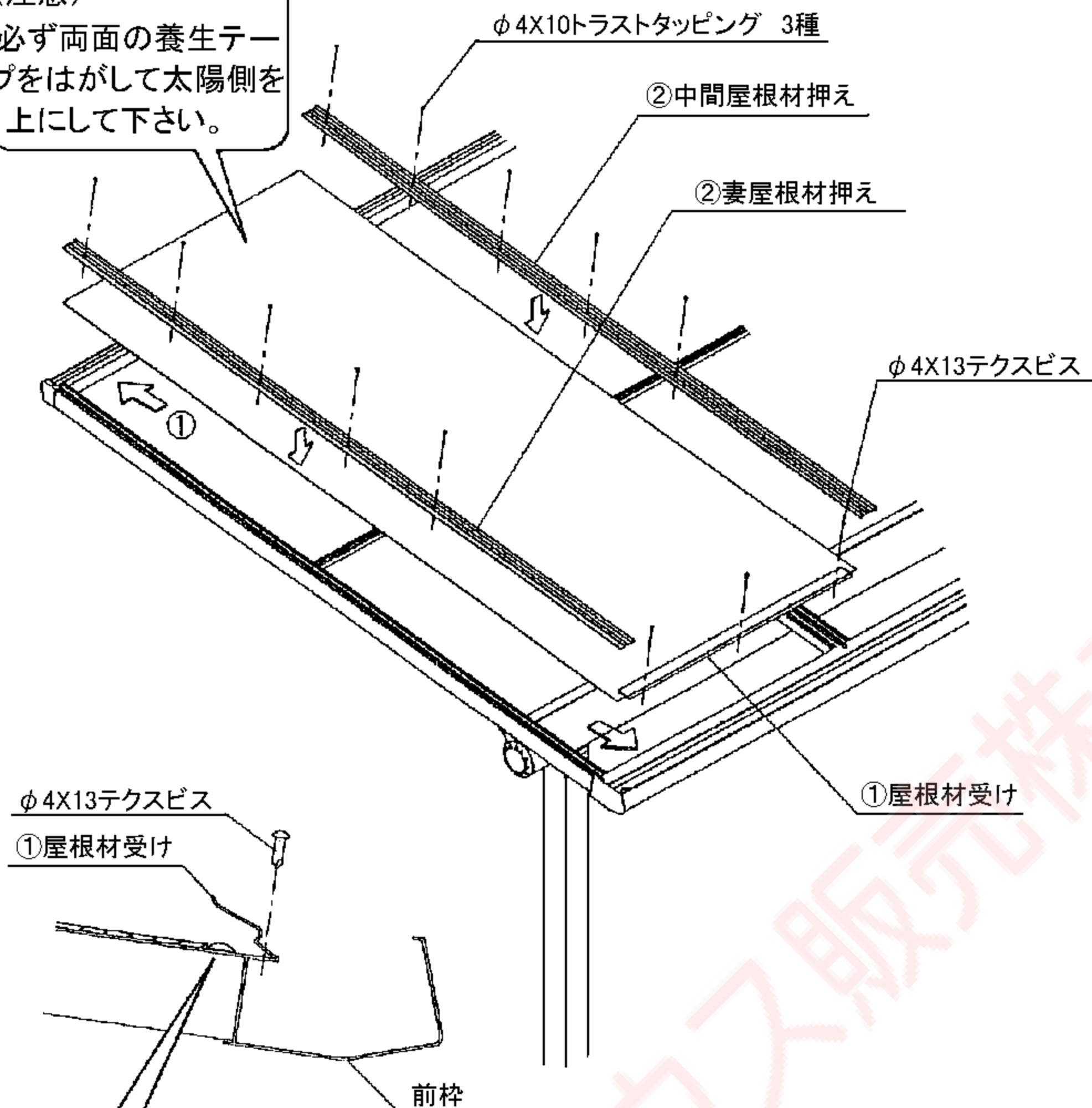
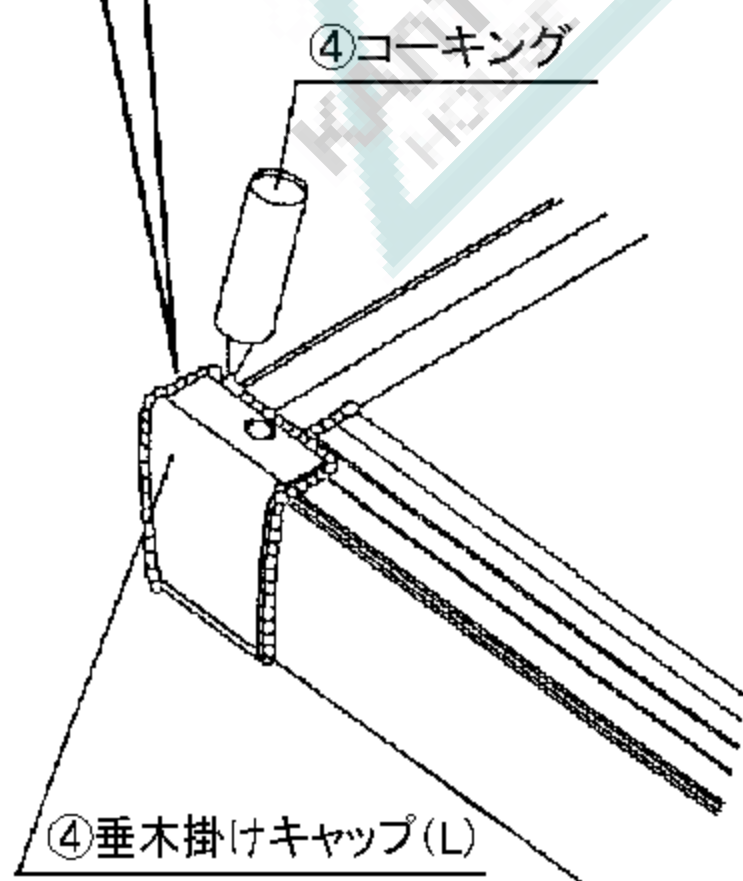
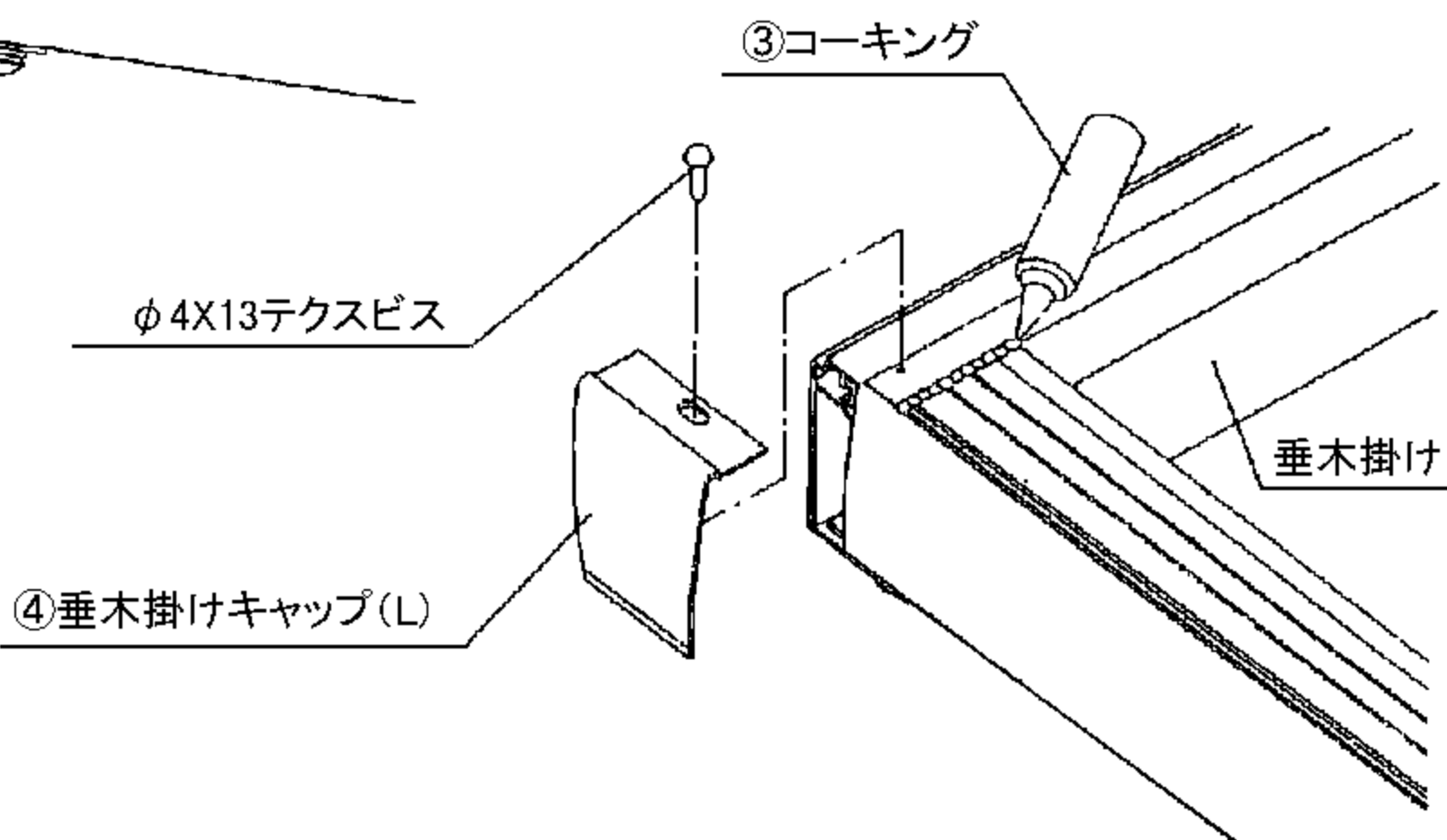
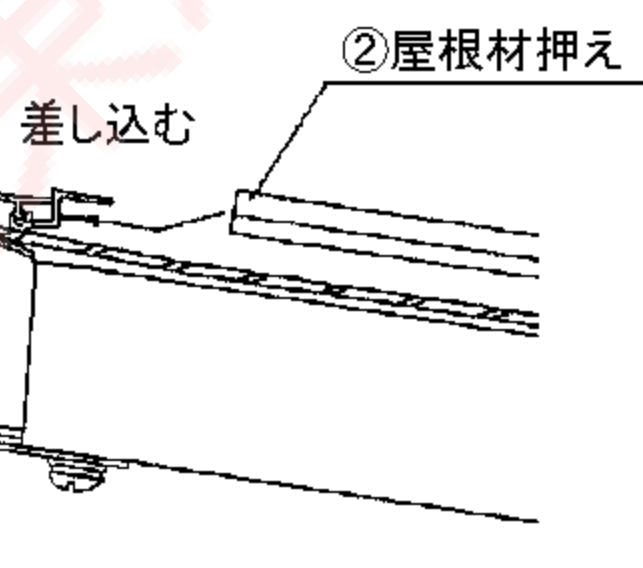
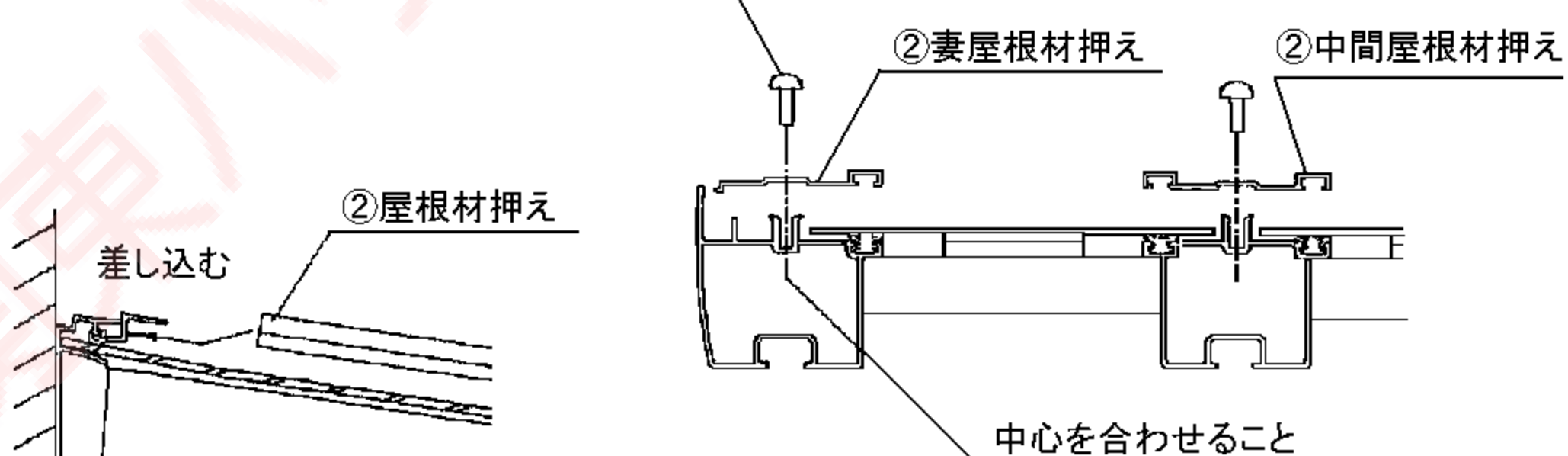
③垂木に前枠を取り付けて下さい。
妻垂木と前枠の接合部に必ずコーキングを施して下さい。
(中間は不要)

④前枠キャップは、内側にコーキングを施してから前枠に固定して下さい。

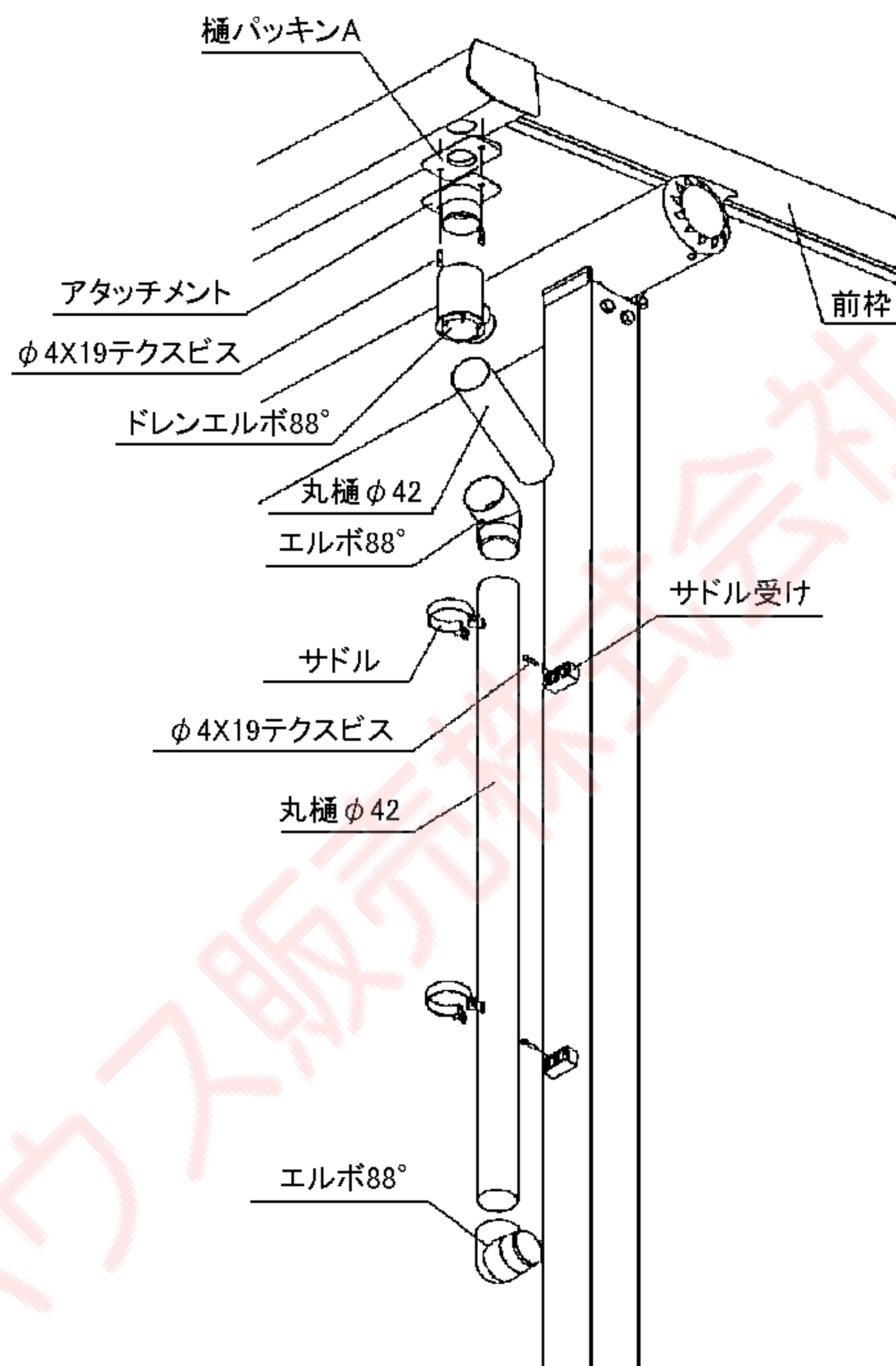
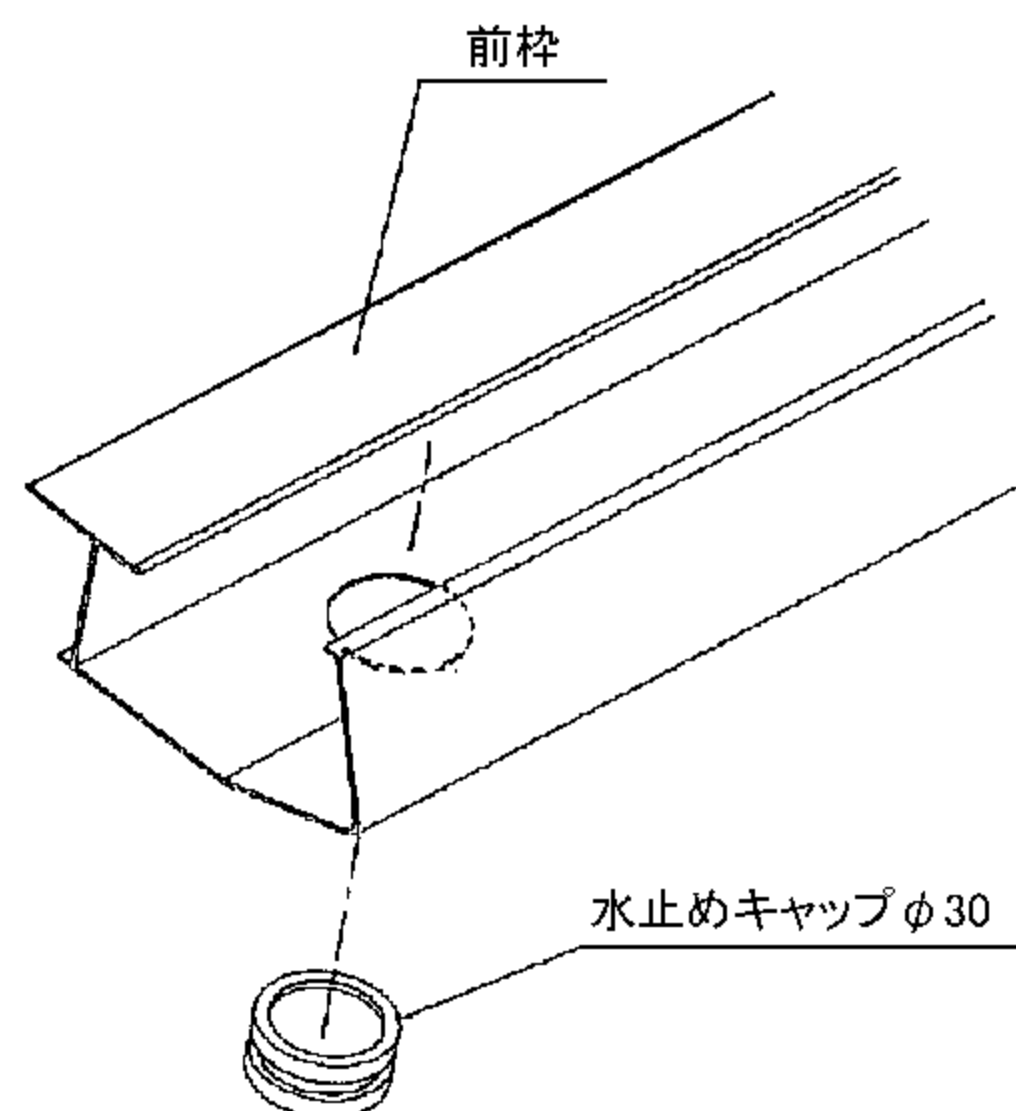
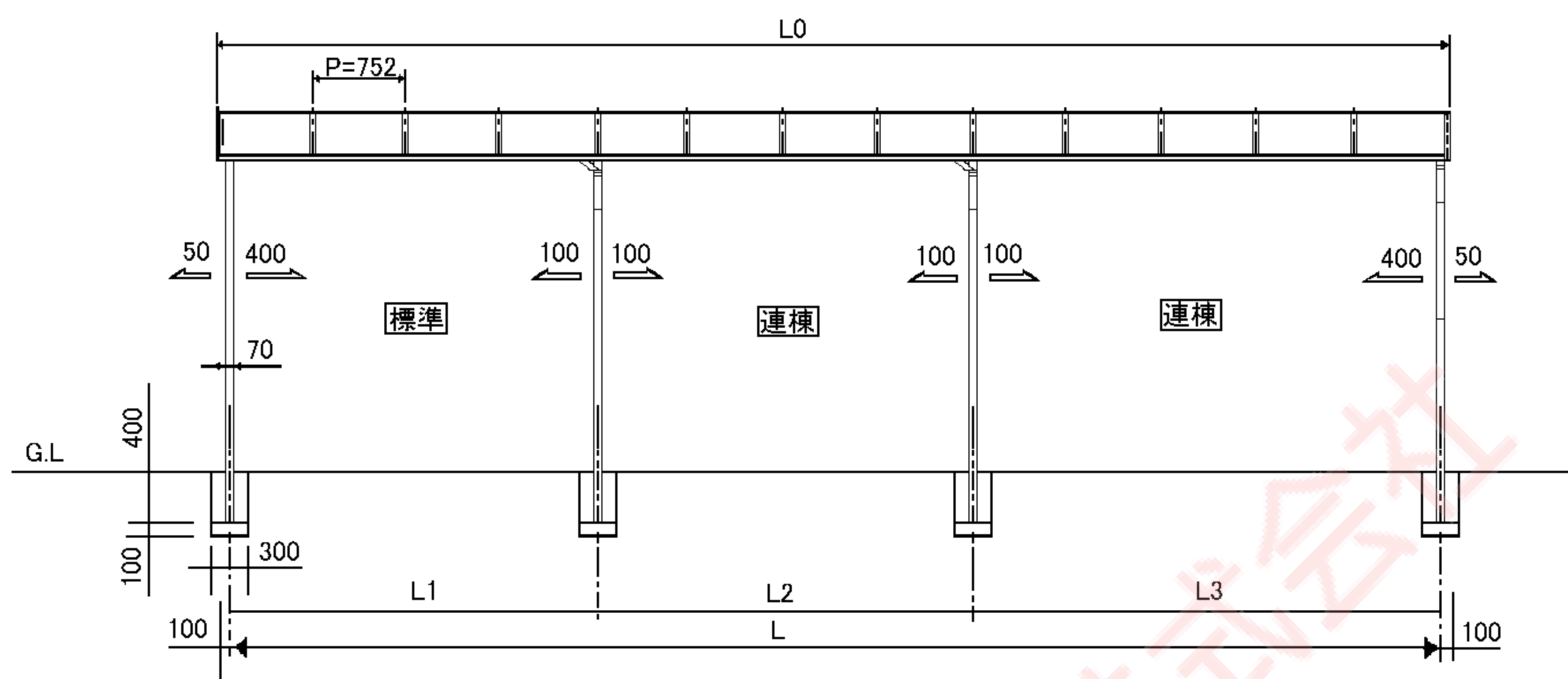
(注意)
- ・コーキングが不十分ですと、雨漏りの原因となります。

4. 中骨の取付

①中骨を取り付けて下さい。
（注意）
中骨取付金具は図のように
取り付けて下さい。

5.補強桁の取付（間口2.5Kで出幅が 18.21の時使用します。）

①柱と桁の固定するボルトを一方だけゆるめ10～20mm柱を広げて下さい。
②下から補強桁を桁に合わせ固定してある柱へ突き当てて下さい。
次に補強桁の中央をビス止めしすべての下穴にビス止めして下さい。
③仮移動させた柱を補強桁にあたるまでもどし固定して下さい。

6. 屋根材、垂木掛けカバーの取り付け

①屋根材を垂木掛けの奥に突き当たるまで差込み、垂木に添わせながら乗せ、前枠側を屋根材受けで押えて下さい。
②屋根材押えを垂木掛けに突き当て、順に前枠側へ取り付けて下さい。
(注意)
・屋根材押えには、妻用と中間用があります。
③垂木掛けと屋根材押えの隙間に、コーキングを施して下さい。
④垂木掛けに垂木掛けキャップを取付け、コーキングを施して下さい。

7. 樋セットの取り付け

①竪樋、横樋を現場に合わせ、切断して下さい。
②仮組後、接着して下さい。
③目隠し側には水止めキャップを取付けて下さい。

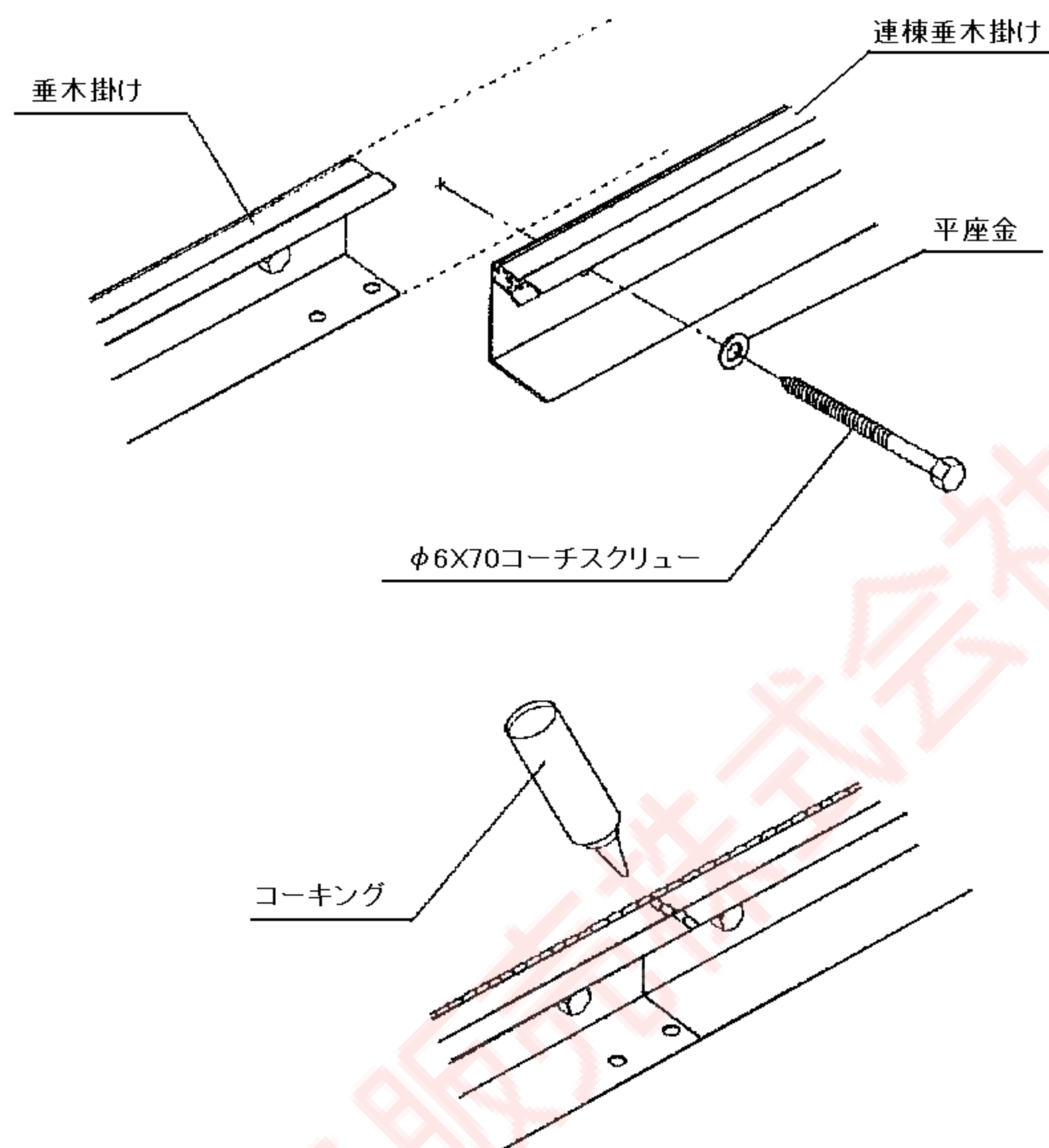
連棟タイプの組立

基本寸法

間口寸法		L	L0	L1	L2	L3
2.5K	1.5K(標)＋1.0K(連)	5110	5310	2951	2159	——
3.0K	1.0K(標)＋1.5K(連)	5862	6062	2951	2911	——
3.5K	1.5K(標)＋2.0K(連)	6614	6814	2951	3663	——
4.0K	2.0K(標)＋2.0K(連)	7366	7566	3703	3663	——
4.5K	1.5K(標)+1.5K(連)+1.5K(連)	8870	9070	2951	3008	2911
5.0K	1.5K(標)+2.0K(連)+1.5K(連)	9622	9822	2951	3760	2911

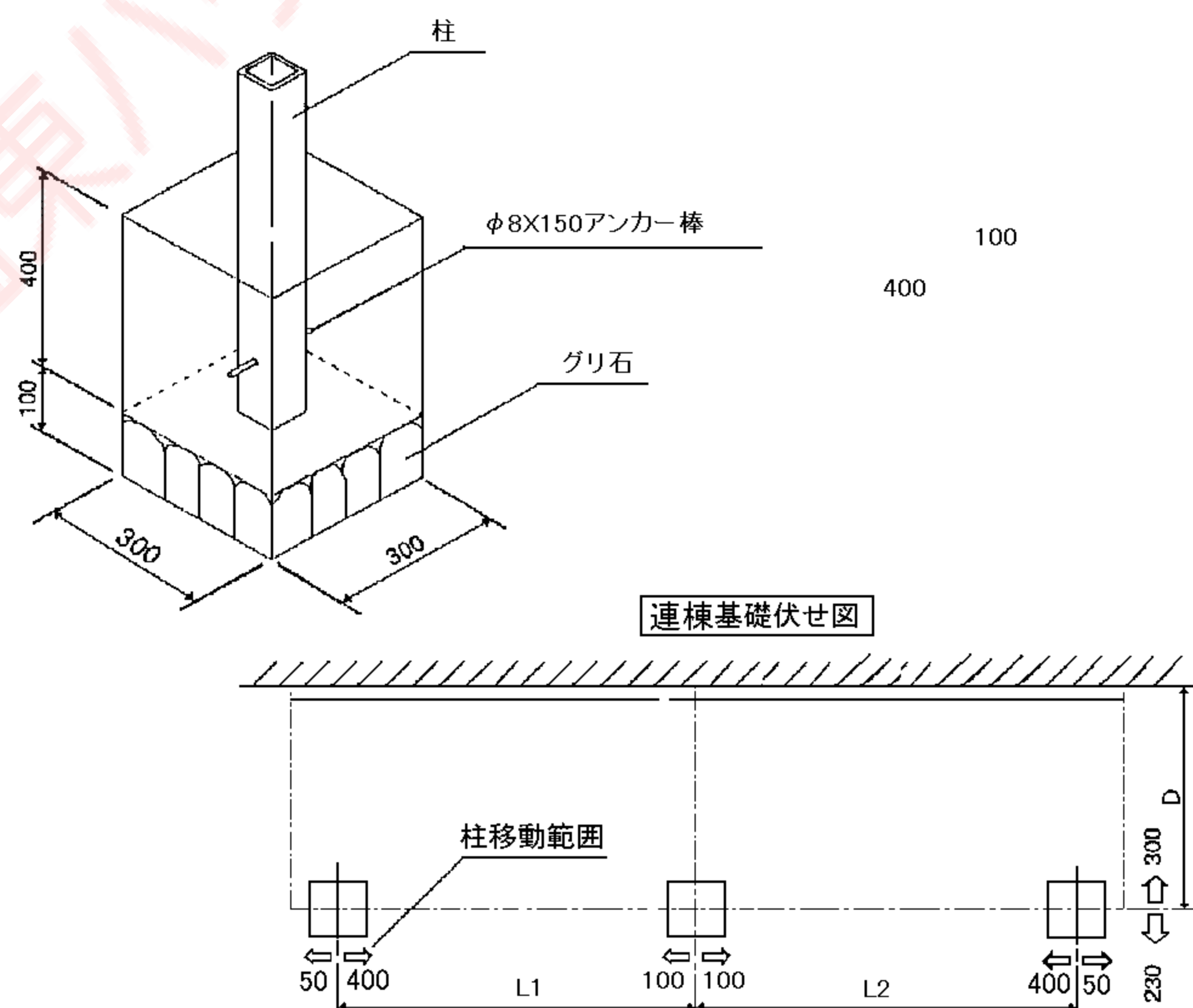
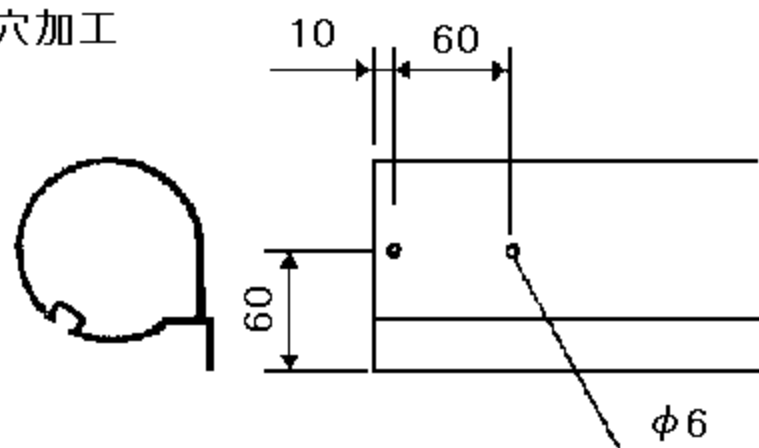
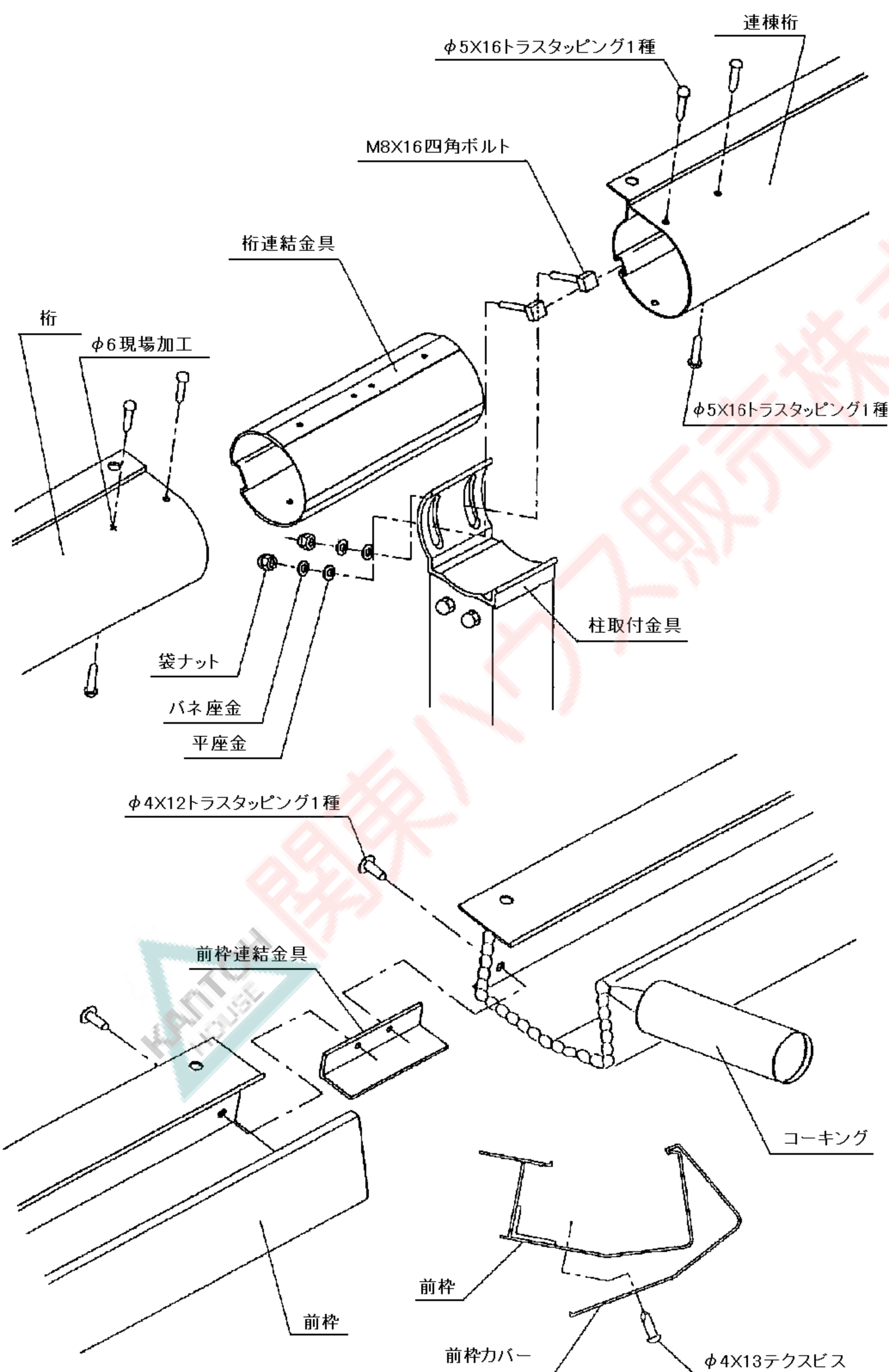
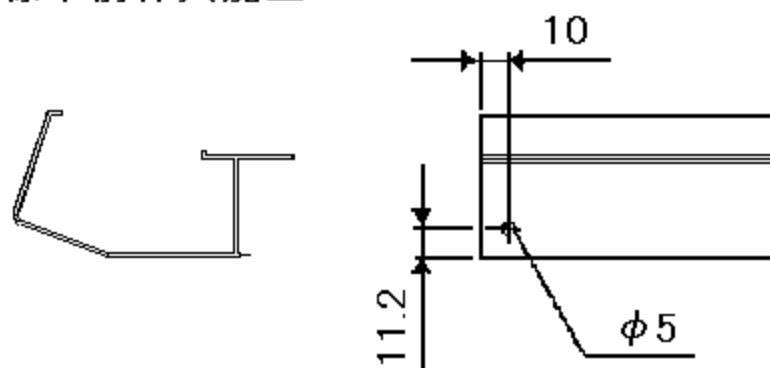
※連棟は標準タイプの右側方向へ順に連棟して下さい。
左側方向へ順に連棟したい場合は、連棟タイプを基準に左側に標準タイプを取付けて下さい。

組合わせ表

梱包名			2.5KW	3.0KW	3.5KW	4.0KW	4.5KW	5.0KW
4-1S	間口セット	1.0KS						
		1.5KS	1	1	1		1	1
		2.0KS				1		
		2.5KS						
4-1W	連棟間口セット	1.0KW	1					
		1.5KW		1	1		2	1
		2.0KW				1		1
4-2	妻垂木セット		1	1	1	1	1	1
4-3	中間垂木セット	2本入		2	1		1	
		3本入	2	1	2	3	3	4
共通柱セット			1	1	1	1	1	1
共通連棟柱セット			1	1	1	1	2	2
屋根材セット		3枚入	1					
		4枚入	1	2	1		3	2
		5枚入			1	2		1
合計梱包数			9	10	10	10	14	14

1.垂木掛けの連結

①垂木掛けの右側に連結垂木掛けを取り付けて下さい。
連結部にコーキングを施して下さい。
(注意)
・コーキングが不十分ですと、雨漏りの原因になります。
・6ページを参照して下さい。

2.基礎の施工

①連結部の基礎は右図の寸法で穴を掘って下さい。
・7頁を参照して下さい。

3.桁、前枠の連結

①桁の連結部に穴加工をして下さい。
②前枠の連結部に穴加工をして下さい。
③桁を連結し、柱と固定して下さい。
(注意)
・桁を連結する下側のビス(図中※印)は、片側2ヶ所のうち、1ヶ所は必ず固定して下さい。
・7頁を参照下さい。
④前枠を連結し、連結部にコーキングを施してから、前枠連結カバーを取り付けて下さい。
(注意)
・コーキングが不十分ですと、雨漏りの原因になります。
8ページを参照下さい。